

京都連合教職大学院 専門職基準試案

教 職 専 門 職 基 準 試 案

スクールリーダー専門職基準試案

京都連合教職大学院

京都教育大学・京都産業大学・京都女子大学・同志社大学

同志社女子大学・佛教大学・立命館大学・龍谷大学

はじめに

教職は高度専門職であり、教員はそれを担う高度専門職業人であるとの観点から、教員の資質能力、教員の資格・養成、教員の職能成長の在り方などが論議されるようになり、現在、「教員の養成は大学院で」という世論が形成されつつある。その背景には、子ども問題の多発・多様化・深刻化、ドラスチックに変化する社会における「生きる力」の育成、社会・国際環境の変化に対応した人材の育成、学校教育への保護者・住民・国民からの強い期待という事情がある。これらの問題や課題はそれ自体、これまでの考えの枠組みや問題解決の方法では対応することが困難な複合的、構造的なものであり、教員にはこれまで経験的に想定していない、もしくは新たな力量を含む高度な力量が求められるようになった。こうした事情を背景に、教員養成に特化した専門職大学院として2008年に設置された教職大学院では、教員の高度な専門性の質の確保と保証を可能にするために大学院で教員を育てる知、つまり「大学院知」を視野にそのスタンダードと専門職基準を策定することが喫緊の課題となっている。「大学院知」の中核は、ことがらの姿とかたちを省察し、その本質とありようを探究し、ありようのパースペクティブを探り出すための実践的研究によって獲得される知として設定すべきものであろう。本京都連合教職大学院は、教育指導をもっぱらとする教員の養成とスクールリーダーの養成を行っていることから、それぞれに対応する専門職基準試案を策定することにした。

教員の仕事は、授業、学級経営、生徒指導、キャリア教育、教材研究などにかかわる知によって支えられる。またそうした知を持続的に改善、深化させる実践的研究がこうした自らの仕事の質を高め、視野を広め、識見を深める。さらには自らの教職キャリアのパースペクティブを切り開くことを可能にする。スクールリーダーの専門職基準は、教員の専門職基準を基盤にして設定することで、専門的教育機関としての学校の経営自律化を促し、経営力を備えたスクールリーダーの養成に資するものになると考える。

ここに示した専門職基準は、教員に期待された職務を果たすために必要な、言わば“一人前”の教員として教育活動を展開できる力量を基本として、確かな職務遂行と創造的な職務遂行を動機づけるものでなければならないし、また教職の専門性をより高度化し、かつ協働の専門性と開かれた専門性を構築するための目安とされるものでなければならない。さらに教育指導と学校運営にかかわる教養、専門的知見や識見、職務遂行能力、そして倫理を示したもので、本研究科が教員とスクールリーダーの養成を行っていくうえでの専門職基準モデルである。したがって専門職基準はカリキュラム、授業、指導体制、評価システム、組織文化において本研究科が担う教員養成とスクールリーダー養成の実践的目標であるばかりでなく、本研究科の使命と責任を社会に表明するものであり、またそのように活用、運用すべきものであると考える。

教職専門職基準試案

1. 教養と識見

高度専門職業人としての教職人であるためには、人間として、社会人として、職業人として生活し、生きる意味を確かめ、その意味を深め、その知を膨らませつつ、学び、探究する姿勢と努力が要求される。こうした不断の学びと探究により自らの感性、自覚、ものの見方・考え方の総体の知、つまり識見(人間観・社会観・世界観・人生観としての教養と専門的教養)を形成し、成熟させることができる。

以上のような常識と教養、そして識見を持ち、児童生徒の「最善の利益」(児童の権利に関する条約)と人権の尊重をめざす、総合的人間力と高度な専門性を備えた、そのような教職人でありたい。

2. 職務遂行能力

(1) 学校教育の文脈を読み解く力

現代の学校教育を支えている政治的、社会的、思想的、文化的背景を読み解きながら、学校教育の状況と本質、そして構造をつかみ、それを踏まえて学校教育の改善や改革のメッセージを発信しうる力量を形成する。

- 学校教育の状況、構造、課題を読み解く力
- 学校・教師と子ども(児童生徒)たちの状況、構造、課題を読み解く力
- 学校教育の文脈を読み解くために必要な知

(2) 教職キャリアに応じてカリキュラムを開発、編成、実施運営する力

学校の教育計画としてのカリキュラム(教育課程や指導計画)の開発・編成と実施運営については教職キャリアに応じて期待される役割が異なる。それぞれのキャリアステージの役割に応じてカリキュラムの開発・編成・実施運営にかかわる力量の形成が期待される。

- カリキュラムを開発・編成し、実施運営する力
- 指導計画を立案し、実施運営する力
- カリキュラム、指導計画を評価し、それらをカリキュラム改善につなげる力
- カリキュラムに関する理論と実践の知

(3)指導力

教職の専門性の核心をなす教育指導は、授業、生徒指導、学級経営として展開するものであり、これらの指導にかかわる以下の力量によって達成される。

①児童生徒理解

- 児童生徒理解の理論と方法の知
- 児童生徒の気持ちと行動を理解しながら、学びと生活を動機づけ、学びと生活の積極性を高める力

②授業力

- 教科と授業の理論と方法の知
- 教科・領域の教材体系(教育内容)に関する知
- 授業を設計、計画、展開、評価する力
- 児童生徒の実態・課題に応じて指導する力
- 授業の教材を作成・開発する力

③生徒指導力

- 生徒指導の理論と方法の知
- 生徒指導の教材体系に関する知
- 生徒指導を設計、計画、展開、評価する力
- 児童生徒の実態・課題に応じて指導する力
- 教材を作成・開発する力

④学級経営力と学年経営力

- 学級・ホームルーム経営の理論と方法の知
- 学年経営の理論と方法の知
- 学級・ホームルーム経営を設計、計画、展開、評価する力
- 学年経営を設計、計画、展開、評価する力

(4)研究力と研究開発力

教育問題や課題は個別的、かつ複合的、構造的であるため、その処理と解決には高度な能力が求められる。そのために教員は自らの教育活動を絶えず高め、持続させるために研究力と研究開発力を高度化する必要がある。

- 教職における研究の理論と方法の知
- 教育活動の本質と構造を解明する力
- 教育活動の課題を明確にし、解決する力
- 自分の研究課題を明確にし、研究を設計、遂行する力
- 自校の研究課題を明確にし、校内研究として設計、組織運営する力

(5)協働, チームを通して問題や課題を処理・解決する力

教育活動と学校活動を推進し, そこでの問題や課題を処理・解決するためには教職員の協働関係の構築が不可欠である。近年, 多面化し複雑化する教育活動と学校活動はこの傾向をますます強め, 関係者及び関係者間の協働による問題解決が強く期待されている。

- 学校組織論に関する知
- ミドルリーダーシップに関する知
- チームによる協働を形成し, 問題や課題を解決する力

(6)保護者・地域と協働・連携する力

保護者・住民に対する教育責任とアカウンタビリティを踏まえ, 保護者・住民の教育意思を尊重した協働, 連携, 参加を構築しうる力量が求められる。

- 教員と保護者・地域, 学校と保護者・地域に関する理論と方法の知
- 保護者の教育意思や願いに対して主体的, 共感的に対応する力
- 保護者と豊かな対話をつくり, 協働する力

3. 教職人としての基盤的能力

教育指導の専門家として自己を確立しつつ, 人とつながり, 人とつなぐことで豊かな教育活動を展開するには下記に示す, 言わば教職を支える基盤的能力が求められる。

- 言語力, コミュニケーション力, ICT 活用力
- 日本語・英語能力
- 人間力, 社会力, 国際的視野
- 実務能力
- 戦略的思考力と論理的思考力

4. 職業倫理

高い公共性を有する教職は, その職務にかかわる人たちや社会と意思を共有して展開すべきものである。そこには自らを律すべき規範や相互の約束ごとがあり, それが相互の信頼構築に貢献している。職業倫理がそれである。わたしたちは職業倫理を未来につながり, 未来を創る教職人を育成する新たなエネルギーとして機能することを期待する。

- 高度専門職業人としての教員の使命, 役割, 責任を踏まえて職務を遂行する力
- 教職に関する法的, 職業的ルールや倫理を踏まえ, 職務を創造的に展開する力
- 児童生徒への深い愛, 思いやり, 面倒見のよさを自らの教職倫理として職務を遂行する力
- 児童生徒・保護者の教育意思を尊重して職務を遂行する力

スクールリーダー専門職基準試案

1. 教養と識見

高度専門職業人としての教職人であるためには、人間として、社会人として、職業人として生活し、生きる意味を確かめ、その意味を深め、その知を膨らませつつ、学び、探究する姿勢と努力が要求される。こうした不断の学びと探究により自らの感性、自覚、ものの見方・考え方の総体の知、つまり識見(人間観・社会観・世界観・人生観としての教養と専門的教養)を形成し、成熟させることができる。以上のような常識と教養、そして識見を持ち、児童生徒の「最善の利益」(児童の権利に関する条約)と人権の尊重をめざす、総合的人間力と高度な専門性を備えた、そのような教職人でありたい。

スクールリーダーの役割は、個人の活動を越えたところの組織と学校の方針や方向を設定し、それを実現することにある。そのために、学校教育と学校づくりに関する戦略的視野と思考力、そして深い識見が求められる。

2. 職務遂行能力

(1) 学校教育の文脈を読み取る力

現代の学校教育を支えている政治的、社会的、思想的、文化的背景を読み解きながら、学校教育の状況と本質、そして構造をつかみ、それを踏まえて学校教育の改善や改革の方向をつくり出す能力が求められる。

- 学校教育政策と行政の動向を読み解く力
- 学校教育の状況と構造、そしてそこでの課題を読み解く力
- 学校・教師と子ども(児童生徒)たちの状況と構造、及びそこでの課題を読み解く力
- 学校教育の文脈を読み解くために必要な知

(2) 学校経営の文脈を読み解く力

現代の学校経営を支えている政治的、社会的、思想的、文化的背景を読み解きながら、学校経営の状況と本質、そして構造をつかみ、それによって探り出した課題を解決するための戦略を提示できる能力が求められる。

- 学校経営政策と行政の動向を読み解く力
- 学校経営の状況と構造、そしてそこでの課題を読み解く力
- 学校経営の文脈を読み解くために必要な知

(3) スクールリーダーシップ

スクールリーダーには自らの職務について設計, 計画, 実施運営する経営力とリーダーシップが求められる。

- 学校づくりのビジョンと戦略を策定する力
- 学校経営計画を設計, 実施運営, 評価, 開発する力
- カリキュラムを編成, 実施運営, 評価, 開発する力
- スタッフマネジメントを計画, 実施運営, 評価, 開発する力
- 組織マネジメントを計画, 実施運営, 評価, 開発する力
- 予算財務を設計, 計画, 実施運営, 評価, 開発する力
- 保護者・地域と連携・協働する力
- 安心安全と危機管理に対応する力
- 学校評価を計画, 実施運営, 評価, 開発する力
- リーダーシップ戦略を策定する力

3. スクールリーダーとしての基盤的能力

スクールリーダーには, 上で示した能力のほか, 経営感覚, 分析力, 洞察力, 探究力, 創造力, 構想力, 企画力, 戦略的思考力, 論理力, 判断力, 決断力, 開かれた学校経営の視野, 国際的視野など, 経営し, リーダーシップを発揮するための基盤をなす戦略的視野と能力が求められる。

4. 職業倫理

高い公共性を有する教職は, その職務にかかわる人たちや, 関係する人たちと意思を共有して展開すべきものである。そこには自らを律すべき規範や相互の約束ごとがあり, それが協働や信頼の構築に貢献している。職業倫理がそれである。わたしたちはこの職業倫理を未来につながり, 未来を創る教職人を育成する新たなエネルギーとして機能することを期待する。

- 高度専門職業人としてのスクールリーダーの使命, 役割, 責任を踏まえた学校づくり
- 教職に関する法的, 職業的ルールや倫理を踏まえた職務の遂行
- 児童生徒への深い愛, 思いやり, 面倒見のよさ
- 児童生徒・保護者・コミュニティの教育意思の尊重
- 学校のミッションへの自覚とその実現のためのリーダーシップ

京都連合教職大学院 専門職基準試案

教職専門職基準試案 スクールリーダー専門職基準試案

2011年2月2日 教授会承認

作成・発行 京都教育大学大学院連合教職実践研究科（京都連合教職大学院）

研究科長 堀内 孜

京都連合教職大学院専門職基準策定ワーキンググループ

委員長 小島弘道

委員 角田 豊

委員 片山紀子

委員 高乗秀明

委員 藤村法子

問い合わせ先 京都連合教職大学院事務室（京都教育大学）

612-8522 京都市伏見区深草藤森町1

Tel:075-644-8108 Fax:075-644-8778

E-mail: renjimu@kyokyo-u.ac.jp